

添付資料1 現地調査(インドネシア)日程

2011.09.28 現在

日付	面談対象	参加団員/オブザーバー	場所
9月27日(火)	東京～ジャカルタ	田中, 中村泰徳	ジャカルタ泊
9月28日(水)	AM 8:30-9:30 在ジャカルタ JICA 事務所研修事業担当者と打合せ 9:30-10:30 帰国研修生同窓会(個人面談) 10:30-11:30 帰国研修生同窓会(個人面談) PM ジャカルタ～マカッサル	田中, 中村	ジャカルター マカッサル泊
9月29日(木)	AM 8:30-10:00 マカッサル JICA 事務所表敬/マカッサル担当者・通訳等との打合せ 10:00-12:00 Mr. Ashar Karateng(帰国研修員), ローカル専門家(スラウェシ CD プロジェクト)(個人面談) PM 13:00- PLSD(Participatory Local Social Development) Institute(帰国研修員)(FGD)	田中, 中村 田島	マカッサル泊
9月30日(金)	AM 9:00-11:00 保健セクター研修帰国研修員(個人面談) PM 14:00- 青年研修帰国研修員同窓会(FGD)	田中, 中村 田島	マカッサル泊
10月1日(土)	10:00-13:00 Pangkep 県(マカッサルから車で2時間)保健センター訪問, 帰国研修員(個人面談)	田中, 中村 田島	マカッサル泊
10月2日(日)	マカッサル～ジャカルタ移動	田中, 中村 田島	マカッサル, 東京ー ジャカルタ泊
10月3日(月)	AM 9:00-10:00 在ジャカルタ JICA 現地事務所研修事業担当者と打合せ 10:45-11:45 在インドネシア大表敬・面談 12:00-13:00 国際交流基金視察 PM 15:30-16:30 警察官帰国研修員同窓会 SAKURA(複数名面談)	山本アドバイザー, 田中, 中村, 田島	ジャカルタ泊

10月4日(火)	AM 9:30-10:30 Mr. Fary (国会議員) PM 13:00-14:00 保健省母子手帳プロジェクト 16:00-17:00 国家教育省 Nuh 大臣(個人面談)		ジャカルタ泊
10月5日(水)	AM 9:00-10:30 調査団内ミーティング 11:00-12:00 大臣官房技術協力局事務局(3名面談) PM 13:00-14:00 アメリカ大使館主催イベント会場視察 15:00-16:00 ジャカルタ地域行政府 MRT プロジェクト(借款案件)(個別面談)	山口主任, 山本アドバイザー 田中, 中村 田島	ジャカルタ泊
10月6日(木)	AM 9:30-10:30 Mr. Muhammad Romli(財務省/国別研修帰国研修員) PM 15:00-16:00 Mr. Funo(農業省/牧畜)	山口主任, 田中, 中村	ジャカルタ泊
10月7日(金)	AM 8:45-9:15 在外公館報告 10:00-11:00 JICA 事務所報告 11:00-13:00 KOICA 面談 ジャカルタ～東京(シンガポール)	山口主任, 田中, 中村	ジャカルター東京 (シンガポール)

添付資料 2 主要面談者等リスト¹

国内関係者		
外務省	石井賢輔	国際協力局開発協力総括課
	田中博之	国際協力局国別開発協力第一課
	角田勝徳	国際協力局国別開発協力第一課
	松尾真理子	国際協力局国別開発協力第一課
	根本直幸	国際協力局国別開発協力第二課
	竹村崇裕	国際協力局国別開発協力第二課
	高嶋清史	国際協力局国別開発協力第三課
	東本真吾	国際協力局事業管理室
	大西英之	外務省研修所（元国際協力局事業管理室）
	湊直信	大臣官房 ODA 評価室室長
	石元明彦	大臣官房 ODA 評価室
	田島昭憲	大臣官房 ODA 評価室
JICA 国内事業部	新納宏	部長
	池上憲三	次長（研修業務担当）
	前原充宏	研修企画課長
	菊地由起子	研修企画課
JICA 東京	原智佐	次長，人間開発・経済基盤開発・環境担当
	竹内智子	人間開発課課長
JICA 横浜	諸永浩之	研修業務課課長
	町田哲	研修業務課専門嘱託
	米林徳人	市民参加協力課課長
JICA 筑波	浅野哲	参事役・研修業務課長
JICA 帯広	半谷良三	所長事務代行
	小林信行	業務課長
	河田健司	調査役
JICA 九州	田村えり子	研修業務課課長
	本田勝	市民参加協力課課長
横浜市水道局	平久	事業推進部事業開発課長
	小畑真子	事業開発課担当係長
日本環境衛生センター	宮川隆	総局企画部企画国際室技術調査役
	古澤真澄	東日本支局研修広報部広報審議役
（財）北九州国際技術協力協会（KITA）	原口清文	コースリーダー
	上野正勝	研修部長
北九州市建設局下水道河川部	武智邦夫	企画課長
	新井章太	主任
稲田小学校	森下寛	教頭
	越智卓	教員
	上出萌	生徒
	坂東真衣	生徒
	永田奏祐	生徒
	加藤隆一	生徒

¹ 国内関係者については，検討会参加者も含む。

帯広畜産大学	中野昌明 参事役・国際企画課長 牧孝幸 教育研究協力部国際企画課国際企画係 河津信一郎 グローバル COE プログラム拠点リーダー 小嶋浩 食品科学研究部門食品工学研究室教授 古山若呼 学生（先端予防治療学専攻） 菅沼啓輔 学生（先端予防治療学専攻） 橋本亜美 学生（農学経済学） 関崎友香 学生（食品学研究室） 大浦春菜 学生（環境土壌学研究室）
日本側関係機関	
在インドネシア日本国大使館	長坂泰宏 経済部一等書記官
JICA インドネシア事務所	中澤繁樹 企画調査員 Dinur Krismasari, Senior Representative
JICA マカッサル事務所	山下契 所員 Dewi Sri Ramayanti, Assistant Program Officer
国際交流基金（ジャカルタ日本文化センター）	高橋祐一 副所長 熊谷啓明 プログラムオフィサー
インドネシア側関係機関	
国会議員	Ir. Fary Dj. Francis 議員
国家教育省	Muhammad Nuh 大臣
大臣官房技術協力局	Suroto Adi, Head Bureau for Technical Cooperation Rika Kiswardani Mukuhammad Fahrulzozzi, Head of TCDC Division
財務省	Rofyanto Kurniawan, Head of Division Muhammad Romli, Financial Policy Office Mutaqin
農業省	Hudeyuki Funo, JICA expert Titik Triary W, Planning Division Aji Barbora Nisasono, DIC Subang Sylvia Maharani Aranta, DIC Subang Sodirun, DIC Subang
保健省	Yuti Suhartati, Director, Directorate of Nursing Care
南スラウェシ県保健局	Mappatoba, Provincial Health Office Sri Wahyuni, Provincial Health Office
ワジョ地区保健局	Abdul Aziz, Wajo District Health Office
パンギャップ県保健所	Ernawati, Batara Pustu
MRT ジャカルタ地方政 府公社	Heru Nugroho, Head of Civil and Structure Division
青年研修同窓会 （KAPPIJA-21）	Mulyono Lodji, President Yusron Fuadi, General Secretary
青年研修同窓会ジャカ ルタ支部（KAPPIJA-21 Jakarta）	Didi Diarsia Adiana, Chairman
青年研修同窓会スラウ ェシ支部（KAPPIJA-21 Sulawesi）	Idrawati Alimuddin, Chairman/Public Health Center of Takalar District Sudarti, Provincial Health Office Jamaluddin Suro, District Development Planning Agency, Takalar District Muhammad Saiful Muchtar, District Public Work Office, Takalar District Syamsul Bahri, District Environment Office, Bulukumba District

	Tamsil, Bulukumba District Awaluddin, NGO Haerullah Lodji, NGO Fajar Alam, Save the Children Nurachmah, SME Development Institute
PLSD Institute	Bachrianto Bachtiar, Coordinator Jumaroi Lanta, Member Muh Hasim, Member Ashar Karateng, Member Darmawan Salman, Member Musran Andi, Member Amir Rahman, Member Muhammad Firda, Member
警察同窓会 (SAKURA)	R. Mantomo Sindh Doddy F. Janjaya, Mahasisua, POLRI Agus Setiyoko, CID, INP Dewa Hyoman Nui, CID, INP Imdra Kurniaivan, Mahasiswa, POLRI Sri Druna.K, MHS, POLRI Danny Y, Chief of Subject, Mobile Brigade Corps Nvredy Irwansya, Chief of CID of Police Sector, INP Iwan Saichadi, Ditlantas Bismo Teguh P, Polres Metro Jakut Wahyu Widada, Chief of Polres Tangerang, Polres Dangerans
ドナー	
KOICA Indonesia Office	Im Jeong Hee, Deputy Resident Representative

添付資料3 JICA 現地事務所用質問票

*は必須回答。

1. 基本情報

質問事項は 1.1 から 1.10 までです。

1.1. 事務所所在国*

1.2. 本質問票ご回答者氏名

1.3. 部署

1.4. 職位

1.5. 電話番号

1.6. Email アドレス

1.7. 研修員同窓会の有無*

ある・なし

1.8. 帰国研修員同窓会の設立年(数字のみ記載)*

1.9. 帰国研修員同窓会の会員数(数字のみ記載)*

(～名の～のみご記載下さい)

1.10. 帰国研修員同窓会の主たる活動内容*

- 1 会員間の親睦事業
- 2 研修事業
- 3 その他

2. 政策の妥当性

質問項目は 2.1 から 2.10 までです。

2.1. 我が国の研修員受入事業(本邦研修)は、全体として、貴事務所の所在国で関心が高いと思われますか。*

- 1 非常に関心が高い
- 2 ある程度関心が高い
- 3それほど関心が高くない
- 4 全く関心がない

2.2. 上記 2.1 で「非常に関心が高い」もしくは「ある程度関心が高い」とご回答になった方、関心が高い主な理由は何であると思われますか。(複数回答可)

- 1 研修の質が高いことが知られているから
- 2 JICA 帰国研修員同窓会のメンバーになることは、当該国で一定のステータスであるから
- 3 帰国研修員同士のネットワークが発達しているから
- 4 他のドナーは同様の研修事業は実施していないため、貴重な機会であるから
- 5 その他

2.3. 上記 2.1 で「非常に関心が高い」もしくは「ある程度関心が高い」とご回答になった方、関心が高い理由の一部として、本邦で実施される研修であることは重要であると思われますか。

- 1 重要である。本邦研修に特に関心が高い。
- 2 本邦研修も現地国内研修・第三国研修も重要度は変わらない。
- 3 重要でない。現地国内研修・第 3 国研修のほうが重要である。
- 4 よくわからない、どちらとも言えない。

2.4. 当該国援助窓口機関との協力関係について、どのように評価しておられますか。*

- 1 大変良好な協力関係である
- 2 おおむね良好な協力関係だが、一部改善の余地あり
- 3 あまり良好な協力関係にない

2.5. 上記 2.4 で援助窓口機関との協力関係について、「おおむね良好な関係だが、一部改善の余地あり」もしくは「あまり良好な協力関係にない」を選択された方、具体的にはどのような点について課題があげられますか。(複数回答可)*

- 1 窓口機関が、独自の便益追求(例：自らの省庁からの研修員派遣等)にのみ興味がある
- 2 窓口機関が、研修員の選定にあたって、貴事務所の意見を受け入れようとしない
- 3 窓口機関が、全体として研修員受入事業に無関心である
- 4 その他

2.6. 当該国援助窓口機関から要望として寄せられるのはどのような点ですか。(複数回答可)*

- 1 研修員の増員
- 2 研修員の選定方法の変更
- 3 研修の種類・プログラムの内容に関する要望
- 4 研修の時期や期間に関する要望
- 5 特に要望は寄せられない
- 6 その他

2.7. 貴事務所では、研修員受入事業の案件形成において、当該国政府の貧困削減戦略・開発計画や我が国の国別援助方針との整合性をどの程度重視されていますか。*

- 1 非常に重視している
- 2 ある程度重視している
- 3 あまり重視していない
- 4 どちらとも言えない、わからない

2.8. 貴事務所では、案件形成の際、どのような情報ソースから研修ニーズを把握しておられますか。(複数回答可)*

- 1 援助窓口機関
- 2 帰国研修員同窓会
- 3 実施中の貴機構プロジェクトの専門家等
- 4 特に研修ニーズは把握していない
- 5 その他:

2.9. 研修員受入事業(特に本邦研修)は、全体として貴事務所の所在国のニーズに合致していると思われますか。*

- 1 非常に合致している
- 2 ある程度合致している
- 3 あまり合致していない
- 4 どちらとも言えない、わからない

2.10. 帰国研修員同窓会との協力関係について、どのように評価しておられますか。*

- 1 大変に緊密な協力関係である
- 2 ある程度は協力している
- 3 あまり頻繁に交流していない
- 4 帰国研修員同窓会は存在しない

2.11. 帰国研修員同窓会との協力関係について、今後どのような見通しを持っておられますか。

*

- 1 より積極的に支援をし、協力関係を深めたい
- 2 支援の程度を変更する見通しはない、おおむね現状維持
- 3 その他

追加記述質問

2.12. 上記 2.1～2.1 の質問について、貴機構が実施する研修事業と、他の二国間援助機関のものとの比較についてコメント願います。

2.13. 貴機関が実施する研修事業のうち、本邦研修と第3国研修の差異についてコメント願います。

2.14. 帰国研修員同窓会の活動状況、同窓会との協力関係について、自由にコメントください。

3. 結果の有効性

質問事項は 3.1 から 3.15 までです。

3.1. 貴事務所の所在国から派遣された研修員の目標達成度を全体としてどのように評価されていますか。*

- 1 期待以上に成果があがっている
- 2 期待通りの成果があがっている
- 3 やや期待以下の成果である
- 4 かなり期待以下の成果である
- 5 目標達成度をあまり把握できていない

3.2. 上記 3.1 で「期待以上に成果があがっている」もしくは「期待通りの成果があがっている」と回答された方、特に長期的にみた場合、どのような点で成果が上がっていると思われますか。
(複数回答可)

- 1 研修で学んだことが職務に生かされている
- 2 帰国研修員が出世して要職についており、これらの人々の間で親日派が形成されている
- 3 帰国研修員の多くは、直接・間接的に JICA の開発協力事業に貢献している
- 4 帰国研修員が当該国の開発に重要な役割を果たしている
- 5 帰国研修員の貢献により、若い人材が JICA 研修に興味を持つようになっている
- 6 その他:

3.3. 上記 3.1 の回答について、コースの目標達成度にばらつきはありますか。ある場合は何
がその原因として重要であるとお考えですか。(3 つまで複数回答可)*

- 1 研修員の個人的資質
- 2 研修員の年齢
- 3 研修員が他のプロジェクトと関連して派遣されたか否か
- 4 研修コースのタイプ(課題別研修, 国別研修)
- 5 研修員の上司・所属機関の、研修に対する興味の程度
- 6 特に目立ったばらつきはない

3.4. 上記 3.3 で「研修員が他プロジェクト関連して派遣されたか否か」と回答された方、ど
ちらの研修員が全般的に目標達成度が高いと思われますか。

- 1 他プロジェクトと関連して派遣されている場合
- 2 他プロジェクトとは特に関係なく派遣されている場合

3.5. 上記 3.3 で「研修コースのタイプ(課題別研修, 国別研修)」と回答された方、どちらの形
態の研修が全般的に目標達成度が高いと思われますか。

- 1 課題別研修
- 2 国別研修

3.6. 今後、長期的な人材育成目標の達成度をより高めるために、貴事務所で実施されてい
ることはどのようなことですか。(複数回答可)*

- 1 帰国研修員のフォローアップ協力の活用
- 2 研修をフォローアップ協力以外の他の支援スキームと組み合わせる
- 3 帰国研修員同窓会との協力関係強化
- 4 案件形成時における研修ニーズ把握の強化
- 5 特に実施していない
- 6 その他

3.7. 上記 3.6 で「研修を他の支援スキームと組み合わせる」を選択された方、どのような支援
スキームと研修事業の組み合わせを実施され、どのような成果をあげられましたか。もしあれば、
コメント願います。

3.8. 研修事業のフォローアップ協力を実施されたことはありますか。*

- 1 ある
- 2 ない

3.9. 上記 3.8 で「ある」を選択された方、フォローアップ協力を活用された成果があればそれについてコメント願います。

3.10. 上記 3.8 で「ない」を選択された方、フォローアップ協力を活用されたことがないのは、どのような理由によるのか、ご説明願います。

3.11. 研修事業の長期的な外交目標（相手国における親日派の形成等）の達成のために貴事務所で実施されているのはどのようなことですか。（複数回答可）*

- 1 帰国研修員同窓会との協力関係強化
- 2 個々の帰国研修員のフォローアップ、継続的コミュニケーション
- 3 将来的に研修員を募集したい対象機関・組織における説明会や意見交換の実施
- 4 特に実施していない
- 5 その他

以下 3.12～3.15 の質問項目は、青年研修に関する質問です。青年研修を実施しておられる機関の方のみご回答ください。

3.12. 貴事務所では、青年研修の人材育成に関する目標達成度をどのように把握しておられますか。（複数回答可）

- 1 研修期間中に何らかの採点を行う

- 2 帰国後のフォローアップで判断
- 3 独自の調査は実施していない
- 4 その他

3.13. 貴事務所の所在国から近年(過去 3 年間程度)派遣された, 青年研修コースの研修員の目標達成度を全体としてどのように評価されていますか。

- 1 期待以上に成果があがっている
- 2 期待通りの成果があがっている
- 3 やや期待以下の成果である
- 4 かなり期待以下の成果である

3.14. 上記 3.13 について, コースの目標達成度にばらつきはありますか。ある場合は何がその原因として最も重要であるとお考えですか。

- 1 研修員の個人的資質
- 2 研修コース(分野等)
- 3 研修員の上司・所属機関の研修に対する興味の程度
- 4 特に目立ったばらつきはない

3.15. 上記 3.14 で, 「研修員の個人的資質」と回答された方, 「研修員の個人的資質」の内容についてご回答ください。(3 つまで複数回答可)

- 1 研修目的と研修ニーズの合致状況
- 2 英語力
- 3 身分・職業(学生, 勤労青年, 農民など)
- 4 個人のやる気
- 5 その他

追加記述質問

3.16. 上記 3.3～3.5 の質問について, 促進要因・阻害要因に関するコメントがあればご記入願います。

4. プロセスの適切性

質問事項は 4.1-4.8 までです。

4.1. 貴事務所では、研修員派遣に関わる一連のプロセス(案件形成, 要望調査, 研修員の選定, 研修員派遣前後のサポート, 帰国後のフォローアップ)について、どのような戦略を持って取り組んでおられますか。(複数回答可)*

- 1 できるだけ同じ所属組織から複数名の研修員が派遣されるようにしている
- 2 できるだけ研修が他の支援スキームとの組み合わせで生かされるよう、プログラムアプローチをとっている
- 3 研修員派遣前後のサポート, 帰国後のフォローアップについては、JICA 事務所の研修担当のみならず、分野担当官もかかわっている
- 4 特にこれといった戦略はない
- 5 その他

4.2. 貴事務所では、研修事業実施にどのような体制で取り組んでおられますか。*

- 1 全事務所体制(研修担当, 管理職, 分野担当全員が関与)
- 2 数名の研修担当によるチーム制
- 3 研修担当者 1 名体制

4.3. 上記 4.1 の研修員派遣に関わる一連のプロセスの管理を行う上で、問題である・改善の余地があると感じておられるのはどのような点ですか。(複数回答可)*

- 1 貴事務所と相手国援助窓口機関との協力関係に問題がある
- 2 相手国のニーズ把握が不十分である
- 3 貴事務所内の人出不足(例: 研修担当が一人で研修に関わる業務にあたっており、フォローアップには手が回らない等)
- 4 帰国研修員同窓会との関係が希薄なため、フォローアップが困難
- 5 特に問題は感じていない
- 6 その他

4.4. 貴事務所では、帰国研修員をどのようにフォローアップしておられますか。(複数回答

可)*

- 1 研修員所属組織との定期的コンタクト
- 2 貴機構の関連技プロの専門家からの情報
- 3 帰国研修員同窓会からの情報
- 4 在外公館との連携(例:大使館主催の親睦会等)
- 5 特にフォローアップはしていない
- 6 その他

--

4.5. 上記 4.4 で回答いただいた方法のフォローアップで、帰国後 5 年程度の状況を把握している帰国研修員の割合は全派遣員の何割ぐらいでしょうか。

- 1 7 割以上
- 2 4－7 割程度
- 3 1－4 割程度
- 4 1 割未満

以下の質問 4.6－4.7 は青年研修に関する質問項目です。青年研修を実施しておられる機関の方のみご回答ください。

4.6. 貴事務所では、青年研修の帰国研修員をどのようにフォローアップしておられますか。(複数回答可)。

- 1 研修員所属組織との定期的コンタクト
- 2 帰国研修員同窓会からの情報
- 3 特にフォローアップはしていない
- 4 その他

--

4.7. 上記 4.6 でご回答いただいた方法のフォローアップで、帰国後 5 年程度の状況を把握しておられる青年研修帰国研修員の割合は、全派遣員の何割ぐらいでしょうか。

- 1 7 割以上
- 2 4－7 割程度
- 3 1－4 割程度
- 4 1 割未満

追加記述質問

4.8. 貴事務所では、青年研修の実施体制をどうされていますか。研修員の選定方法等、他の研修とは異なる点についてご説明ください。

--

4.9.研修員受入事業の一連のプロセスについて、追加のコメントがありましたらご自由にお書きください。

--

以上で質問票は終了です。ご協力ありがとうございました。

添付資料4 国内受託・実施機関用質問票

*は必須回答。

1. 基本情報

質問事項は 1.1 から 1.10 までです。

1.1. 組織名*

1.2. 本質問票ご回答者氏名

1.3. 部署

1.4. 職位

1.5. TEL 番号

1.6. Email アドレス

1.7. 組織の種類*

- | | |
|---|-------------|
| 1 | NGO |
| 2 | JICA 国内センター |
| 3 | 民間企業 |
| 4 | 公益法人 |
| 5 | 国際機関 |
| 6 | 政府 |
| 7 | 大学 |
| 8 | 地方自治体 |
| 9 | 独立行政法人 |

1.8.(1) 平成 20 年度～22 年度課題別(集団・地域別)研修実施回数(過去 3 年間の課題別研修コース実施合計回数(延べ)。数字のみを記載)*

(回答記入例:同じ研修を単年度に 2 回, 3 年間実施した場合は,「6」と記載下さい)

--

1.8.(2) 平成 20 年度～22 年度 青年研修実施回数(過去 3 年間の青年研修コース実施合計回数(延べ)。数字のみを記載)*

(回答記入例:同じ研修を単年度に 2 回, 3 年間実施した場合は,「6」と記載下さい)

--

1.8.(3) 平成 20 年度～22 年度 国別研修実施回数(過去 3 年間の国別研修コース実施合計回数(延べ)。数字のみを記載)*

(回答記入例:同じ研修を単年度に 2 回, 3 年間実施した場合は,「6」と記載下さい)

--

1.9.(1) 平成 20 年度～22 年度課題別(集団・地域別)研修員受入人数(過去 3 年間の課題別研修員受入合計数(延べ)。数字のみを記載)*

(回答記入例:同じ研修員が 3 つのコースに参加した場合,「3」と記載下さい)

--

1.9.(2) 平成 20 年度～22 年度 青年研修員受入人数(過去 3 年間の青年研修員受入合計数(延べ)。数字のみを記載)*

(回答記入例:同じ研修員が 3 つのコースに参加した場合,「3」と記載下さい)

--

1.9.(3) 平成 20 年度～22 年度 国別研修員受入人数(過去 3 年間の国別研修員受入合回数(延べ)。数字のみを記載)*

(回答記入例:同じ研修を単年度に 2 回, 3 年間実施した場合は,「6」と記載下さい)

--

1.10. 貴機関では, JICA から受託する研修コースのほかに, どのような研修員を対象とした, どのような研修コースを実施しておられますか。

--

2. 結果の有効性

質問事項は 2.1 から 2.17 までです。

2.1 貴機関では、研修コースの目標達成度をどのような方法で把握しておられますか。(複数回答可能)*

- 1 研修員の研修内容習得度テストをコースで実施
- 2 研修員が作成したアクション・プランの内容で判断
- 3 アクションプランの実施状況を帰国後フォローアップ
- 4 その他

2.2 貴機関で近年(過去 3 年間程度)実施された、研修コースの目標達成度を全体としてどのように評価されていますか。*

- 1 期待以上に成果があがっている
- 2 期待通りの成果があがっている
- 3 やや期待以下の成果である
- 4 かなり期待以下の成果である

2.3 上記 2.2 の回答について、コースの目標達成度にばらつきはありますか。ある場合は何がその原因として考えられますか。(3 つまで複数回答可)*

- 1 参加した研修員の個人的資質
- 2 研修コースの講師や教授法
- 3 研修コースのタイプ(課題別研修, 国別研修)
- 4 研修コースの期間や時期
- 5 特に目立ったばらつきはない

2.4 上記 2.3 で、「参加した研修員の個人的資質」と回答された方、「研修員の個人的資質」の内容についてご回答ください。(複数回答可)

- 1 出身地域・国
- 2 英語力
- 3 所属組織の要因(中央省庁, 地方自治体, 民間企業など所属組織の種類や研修員へのサポート体制)
- 4 年齢
- 5 個人のやる気
- 6 その他

2.5 上記 2.3 で、「研修コースのタイプ(課題別研修, 国別研修)」と回答された方, どちらの形態の研修が全般的に目標達成度が高いと思われますか。

- 1 課題別研修
- 2 国別研修

2.6 貴機関にとって, 途上国からの研修員を受入れた研修を受託することにより, 組織にとってどのようなプラスの変化がありましたか。(複数回答可)*

- 1 途上国の開発へ貢献できた
- 2 地域の国際化あるいはその他の地域の変化へ貢献できた
- 3 組織の知名度が向上した
- 4 その他

2.7 上記 2.6 で 2 を選択された方, 「地域の国際化あるいはその他の変化」の内容を具体的に説明下さい。

2.8 研修コースの実施を通して, コース実施関係者(講師陣, コースリーダー等)の ODA を含む国際協力に対する理解が促進されたと思いますか。*

- 1 明らかに促進された
- 2 ある程度促進された
- 3 変化なし。あるいは, どちらともいえない

2.9 上記 2.8 の質問に「明らかに促進された」または「ある程度促進された」と回答された方, それはどのような理由によると思いますか。

- 1 研修コースの準備に必要な学習の効果による
- 2 研修員から直接フィードバックを受けたことによる
- 3 研修員とのコミュニケーションを通じて
- 4 研修コースが途上国の開発に貢献していることを実感したことによる
- 5 その他

2.10 研修コースの実施を通して、上記 2.8 の他に、何かコース実施関係者（講師陣、コースリーダー等）に変化が生じたと思いますか。どのような変化が生じたかお答えください。（3 つまで複数回答可）*

- 1 途上国に対する関心・理解が高まった
- 2 国際交流全般に積極的になった
- 3 仕事に新たなやりがいを見出すようになった
- 4 地域に新たな良さを見出すようになった
- 5 特に変化は生じていない
- 6 その他

2.11 貴機関で実施する他の研修スキームと比較して、JICA 研修員受入事業が特徴的であると思われる点は何ですか。（複数回答可）*

- 1 研修員が全般的に意欲的である
- 2 研修員との交流が研修終了後も継続する
- 3 研修の計画、実施過程で苦勞が多い
- 4 他の研修は実施していないため比較不可能
- 5 その他

以下 2.12～2.15 の質問項目は、青年研修に関する質問です。青年研修を実施しておられる機関の方のみご回答ください。

2.12 貴機関では、青年研修コースの目標達成度をどのような方法で把握しておられますか。（複数回答可）

- 1 研修期間中に何らかの採点を行う
- 2 帰国後のフォローアップで判断
- 3 独自の調査は実施していない
- 4 その他

2.13 貴機関で近年(過去 3 年間程度)実施された, 青年研修コースの目標達成度を全体としてどのように評価されていますか。

- 1 期待以上に成果があがっている
- 2 期待通りの成果があがっている
- 3 やや期待以下の成果である
- 4 かなり期待以下の成果である
- 5 目標達成度をあまり良く把握できていない

2.14 上記 2.13 で「目標達成度をあまり把握できていない」以外を選択された方, コースの目標達成度にばらつきはありますか。ある場合は何がその原因として最も重要であるとお考えですか。

- 1 研修員の個人的資質
- 2 研修コース(分野等)
- 3 研修コースの講師や教授法
- 4 研修コースの期間や時期
- 5 特に目立ったばらつきはない

2.15 上記 2.14 で, 「研修員の個人的資質」と回答された方, 「研修員の個人的資質」の内容についてご回答ください。(3 つまで複数回答可)

- 1 出身地域・国
- 2 英語力
- 3 所属(学生, 勤労青年, 農民など)
- 4 個人的やる気
- 5 その他

追加記述質問

2.16. 上記 2.3～2.5 の質問について, 促進要因・阻害要因に関するコメントがあればご記入願います。その他, 本セクションの質問項目に関するコメントを自由にお書きください。

2.17. 貴機関で実施された研修コースに関わる印象的な出来事等があれば、詳細をお聞かせ下さい。

--

3. プロセスの適切性

質問事項は 3.1-3.9 までです。

3.1 貴機関で、各研修コースの目的を達成するために、コースの企画・計画、実施の過程で特に工夫しておられる点はどのような点ですか。(3 つまで複数回答可)*

- 1 研修員の希望を聴取し、できる範囲で研修内容の調整・研修手法の多様化を図る
- 2 言葉の障壁を乗り越えるための工夫(現場視察など、ビジュアルな学習を増やす、など)をする
- 3 効果的な講師陣の選択を行う
- 4 研修員が地域コミュニティと触れ合うことのできる機会を設ける
- 5 研修期間の変更(短縮あるいは延長)
- 6 その他

--

3.2 コースの企画・計画、実施の過程で、特に困難であると感じておられる点はどのような点ですか。(3 つまで複数回答可)*

- 1 研修員のニーズの把握が困難
- 2 言葉の障壁が乗り越えられない
- 3 適切な講師陣を配置することが困難
- 4 JICA 他、関係機関との調整(タイミング等)
- 5 その他

--

3.3 今後、貴機関で実施される研修コースにおいて、「途上国の人材育成の目的」の達成度をより高めるために、JICA 他関係協力機関に改善を依頼したいのはどのような点ですか。(3 つまで複数回答可)*

- 1 案件形成のプロセス

- 2 案件形成のタイミング
- 3 研修員の選定プロセス
- 4 財政面の改善(受託機関に対する支払額の増額等)
- 5 研修終了後のフォローアップの徹底
- 6 その他

3.4 貴機関では、研修員受入事業のためにどのような実施体制をとっておられますか。(あてはまるものを全て選択してください)*

- 1 専門の講師を採用している
- 2 各コース実施のためのチームを組成している
- 3 問題の早期発見・対応のためのモニタリング体制をひいている
- 4 特別な実施体制はひいていない

以下の質問 3.5, 3.6, 3.7 は青年研修に関する質問項目です。青年研修を実施しておられる機関の方のみご回答ください。

3.5 貴機関で、青年研修コースの目的を達成するために、コースの企画・計画、実施の過程でどのような点に特に工夫しておられますか。(3 つまで複数回答可)。

- 1 研修員の希望を聴取し、研修内容の調整・研修手法の多様化を図っている
- 2 言葉の障壁を乗り越えるための工夫(現場視察など、ビジュアルな学習を増やす、など)をしている
- 3 研修員に対して効果的な講師陣の選定を行う
- 4 研修員が地域コミュニティと触れ合うことのできる機会を設ける
- 5 研修期間の変更(短縮あるいは延長)
- 6 その他

3.6 青年研修コースの企画・計画、実施の過程で、特に困難であると感じておられる点はどのような点ですか。(3 つまで複数回答可)

- 1 研修員のニーズの把握が困難
- 2 言葉の障壁が乗り越えられない
- 3 適切な講師陣を配置することが困難
- 4 JICA 他、他機関との調整(タイミング等)

5 その他

--

3.7 貴機関では、青年研修コース実施のためにどのような実施体制をとっておられますか。

- 1 専門の講師を採用している
- 2 各コース実施のためのチームを組成している
- 3 問題の早期発見・対応のためのモニタリング体制をひいている
- 4 特別な実施体制はひいていない

追加記述質問

3.8 上記の質問 3.3. について、改善が必要と思われる事項の具体的提案があれば、ご説明願います。

--

3.9 研修コースの質を確保・管理するために貴機関が特に注力されている側面があれば、ご記入願います。その他、本セクションの質問項目に関するコメントをご自由にお書きください。

--

以上で質問票は終了です。ご協力ありがとうございました。

添付資料 5 参考文献リスト

日本の政策関連文書

- 外務省 「平成 23 年度国際協力重点方針」 2011 年
外務省 「開かれた国益の増進—ODA のあり方に関する検討最終取りまとめ」 2010 年
外務省 「独立行政法人の事務・事業の見直しの基本方針」（閣議決定）2010 年
外務省 「政府開発援助に関する中期政策」 2005 年
外務省 「政府開発援助（ODA）大綱」 2003 年
財団法人日本国際問題研究所「将来の国際情勢と日本の外交—20 年程度未来のシナリオ・プランニング：平成 22 年度外務省国際問題調査研究・提言事業報告書」 2011 年
JICA 「平成 22 年度の業務実績に関する項目別評価シート」 2010 年
JICA 「平成 21 年度の業務実績に関する項目別評価シート」 2009 年

研修関連資料

- JICA「研修員受入事業課題別研修終了時評価報告書」 2011 年
JICA「技術研修員受入の手引き（研修受託機関用）」 2011 年
JICA「平成 22 年度課題別研修事後評価調査報告書」 2011 年
JICA「2010 年度課題別研修プログラム概要」 2009 年
JICA「JICA 研修員受入事業の地域への貢献度調査」（JICA 札幌）2008 年
JICA「地域の国際化への貢献度調査報告～研修事業を中心として」（JICA 中国）2008 年
JICA「JICA 帯広国際センターがもたらした影響」（JICA 帯広）2008 年
JICA「地域の国際化への貢献度調査」（JICA 九州）2008 年
JICA「研修員受入事業が地域の国際化に果たした貢献度調査—秋田県鹿角郡小坂町のケーススタディー」（JICA 東北）2008 年
JICA「地域の国際化への貢献度調査—農学研修及び筑波研究学園都市を中心として」（JICA 筑波）2008 年
JICA「沖縄県における優良事例の調査結果と考察についての報告」（JICA 沖縄）2008 年
JICA「地域開発分野における研修事業の地域国際化貢献度調査」（JICA 中部）2008 年
JICA「地域の国際化への貢献度調査報告書—滋賀県甲良町のまちづくり事例と参加型農村開発—」（JICA 兵庫）2008 年
JICA「JICA 事業の地域の活性化，国際化への貢献度調査（氷見市の事例調査）」（JICA 北陸）2008 年
JICA「研修事業を通じた地域貢献の事例について」（JICA 四国）2008 年
JICE「研修員受入事業が日本国内に与えたインパクトに関する調査～研修員受入事業により活性化される受入組織についての考察～」 2007 年

JICE「研修員受入事業が日本国内に与えたインパクトに関する調査～名古屋・中部地区における調査から～」2007 年

JICE「研修員受入事業が日本国内に与えたインパクトに関する調査～北九州市における研修員受入事業の実態と展望～」2007 年

JICE「研修員受入事業が日本国内に与えたインパクトに関する調査～地域貢献としての研修員受入～」2007 年

インテムコンサルティング株式会社「技術協力事業インパクト調査～横浜市の実施機関を中心として」2008 年

財団法人日本国際協力センター，株式会社レックス・インターナショナル「国際協力活動を通じて日本人は何を学んだのかーODA 事業の国内インパクト検証調査」2005 年

財団法人国際開発センター，アイ・シー・ネット株式会社「プロジェクト研究「日本型国際協力の有効性と課題」2003 年

ウェブサイト

外務省ホームページ <http://www.mofa.go.jp/mofaj/index.html>

JICA ホームページ <http://www.jica.go.jp/>